

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：55402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02777

研究課題名(和文)外国人労働者の言語使用の実態からコミュニティ形成へ

研究課題名(英文)The actual state of foreign workers and their language use, toward establishing their community

研究代表者

桑田 明広 (KUWADA, Akihiro)

広島商船高等専門学校・一般教科・教授

研究者番号：50153432

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：広島県の大崎上島で働く外国人労働者に、日本で働く動機、日本への関心や現地での生活状況などを聴取し彼らの現状を把握する。その際に彼らの母語を用いることで、より細やかに本音を引き出すよう努める。その結果に基づき、島でより快適に有意義に滞在してもらう為に不足している情報などを提供すると同時に、島内に働く外国人労働者たちが交流するコミュニティを形成する契機を与える。併せて、彼らが日本で働く際に現実的に必要な日本語の語学力を調査し分析することで、日本人が海外で働くときに要求される英語力を推定する。

研究成果の概要(英文)：The foreign workers on Osakikamijima Island, Hiroshima Prefecture, are interviewed about their incentive to work in Japan, their conditions living there, their interests in Japan, and so on, for which we can make up by establishing an information-offering system. We ask them in their own mother tongues to pull out what they really think. In the course of this activity, there will grow a sort of foreign workers' community on the island. Besides, their ability of the Japanese language will indicate how much we should teach our students when they work overseas.

研究分野：外国語教育

キーワード：異文化間コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

広島県江田島市で働いていた外国人労働者が雇用者を殺傷する事件が平成12年に起きた。瀬戸内海の数キロ西の島で出来た凶事は、他国の作業場で孤立した環境の中で心理的に追い込まれてしまったことが原因ではなからうかと推測され、本土と橋でつながっていない大崎上島の外国人労働者はさらに孤立化しているのではないかと、彼らの現状を調査し、何らかの手を打つべきであろう、と考えたのがこのプロジェクトの発端である。そして、心に思うことを躊躇なく、また言語上の障害もなく表出してもらう為に外国人労働者たちに彼らの母語を用いて聴取をすることを思い立った。

2. 研究の目的

広島県の大崎上島に働く外国人労働者に、日本で働く動機や現地での生活状況、日本への関心などを聴取し彼らの現状を把握する。その際に彼らの母語を用いることで、より細やかに本音を引き出すよう努める。その結果に基づき、島でより快適に有意義に滞在してもらう為に不足している情報などを提供すると同時に、島内に働く外国人労働者たちが交流するコミュニティを形成する契機を与える。併せて、彼らが日本で働く際に現実的に必要な日本語の語学力を調査し分析することで、日本人が海外で働くときに要求される英語力を推定する。

3. 研究の方法

まず大崎上島で働く外国人労働者に聴取を行なうことで実態を把握し、その上で彼らの状況を少しでも良い方向へ導き、願わくは島の中に外国人労働者のコミュニティが生起するよう様々な取り組みを構築すべく企てた。

しかし取り組みは端緒から障壁にぶち当たる。大崎上島町役場に外国人の居住者の情報を求めたが、把握はしているが閲覧は許可できないとの回答であった。やむなく地元の方々の情報を頼りに事業所を個々に訪ねた。

その結果、第一年度には造船関係の2社で働く中国人15名、第二年度には農業関係の1社で働くベトナム人8名を聴取した。中国語は、本校の中国系教員とで第二外国語(中国語)を教授している非常勤講師の助力を得た。工場の事務室や彼らの宿舎へ出向き歓談した。予定時間を大幅に超えて話に没頭する場面もしばしばであった。ベトナム語については、津山工業高等専門学校に留学生として在籍している学生に大崎上島まで来てもらって聴取を実施した。被聴取者が二十代の女性たちで、年下の学生たちを翻弄する雰囲気もあり、学生たちは対話のあと疲労困憊の様子であった。

大崎上島に数人のフィリピン人労働者も

滞在している情報を得たが、フィリピン語調査協力者の個人的な事情で実施できなかった。

外国語(日本語)に囲まれ長期間にわたって生活しているときに、母語で語り合える解放感はとても大きいようである。設定したどの場面でも外国人労働者たちと聴取者との快活なよどみない対話が繰り広げられ、また、恐らく彼らの偽りのない心情がほとぼしり出たと推測される。

外国人労働者に聴取する際には、それぞれの企業関係者の方々と話す機会を得て、雇用する側からの事情を聞くことができた。また、本取り組みを進めるに当たり、大阪国際交流センター国際交流課課長代理、江田島市市民生活部人権推進課課長、しまなみ異業種協同組合外国人研修生受入事業担当者、福山市松永支所松永生涯学習センター職員、大崎上島町企画振興課まちづくり推進係長などに情報の提供や助言を頂いた。

4. 研究成果

この取り組みで得た知見を、日本への受容、日本文化への引き入れ、生活情報の取得、それに筆者らの関心事である日本語レベル、四つの視点から確認する。

外国人の日本への受容

様々な奨励を受け日本への観光客を増やす施策が行なわれており、実績を挙げている。日本に学びに来る学生も、海外へ留学する日本人学生も政府の支援を得て全体的には増加し、国際化は進んでいる。

しかし一方で、移民政策を採らない我が国は、外国人労働者あるいは外国人定住者に関わる状況では芳しい数値は出て来ない。この度の取り組みは結果的に被聴取者が全て技能実習生で、その実態調査を行なうことになった。観光や留学の増加に比較して、技能実習生として来日する人々の数は穏やかな増減の推移を示している。

外国人技能実習生という制度では「単純労働」は除外され、日本国が有する優越した技術を外国人労働者に修得してもらい母国の発展に役立ててもらうことを意図している。しかし大崎上島の外国人労働者たちの意識は「出稼ぎ」であるようであった。日本語を上達させたいと若い労働者たちが語ったし、帰国して日本語を使う職に就きたいと語る者もあったが、彼らの自由意志による発言の中に現在働いている職種についての技術修得に言及した聴取記録は見当たらない。(技能実習制度について現場の意見を聞いたが小論では取り上げない)

日本文化への引き入れ

今回の取り組みで聴取した外国人労働者の回答は、端的に言えば「お金のみに興味があり、日本文化への関心は乏しい」。外国人労働者は本国への送金の他には小さな生活圏から出ない。食料や生活用品は島のスーパーではなく、ネットショッピングなのである。生活圏から出たい、島から出たいと言いつつも、不足ない楽しい生活を送っている様子である。

日本文化に対する予想外の無関心を聴取の中で表明された。この取り組みが意図するコミュニティ形成に向けての活動は、彼らには労働に疲れた週末に科せられる余分な労役でしかない、との指摘は重く心に滞るものであった。日本に来たのだから日本文化の片鱗に接してもらおうという思いは、我々の思い上がりでしかないのかも知れない。

中には日本のアニメや国内旅行に関心を持つ人もいるが、あくまで趣味であって、大多数の外国人労働者には、仕事があればもっと残業をしたい、ない時は休息をとりたい、というのが本音のようだ。

前節と併せて結論づければ、外国人労働者が日本に根付くことを、彼らも我らも欲していない。

近隣の福山市では、多文化共生を目指し様々な外国人市民の支援団体が中心となって催す「まつながカープジェー」などの行事を実施し、在留外国人と地元民との交流を促している。都市部の外国人労働者は職場から遊離し同国人同士による国別コミュニティを形成しており、機会を与えられれば民族の舞踊や料理を披露する。

一方、大崎上島の外国人労働者は雇用者の提供する宿舎で起居し、雇用者がドライブに連れ出し、地域の祭りに参加させる。基本的に職場が生活圏となっている。このような差異に気づく視座を与えてくれたのは島嶼学会のフロアからの指摘であった。江田島市役所で頂いた助言とも通じる認識である。外国人労働者でも、家族と定住生活をする人々と、短期間の労働をした後すぐに帰国する人々とは、別の対応を採らねばならない、とのことであった。

ただ、雇用者は外国人労働者を家族同然に遇しているが、自らの職場で働く外国人労働者たちが島内の同国人と連携することを、穏やかな口調ながら拒否したことは、本取り組みへの大打撃であった。

生活情報の提供

この取り組みで新たに構築するウェブ・サイト上で流す情報として、地元のスーパーの売り出しとか地域社会の催しを掲載し、また回覧板の情報を様々な言語で伝えることから始めようと考えていた。

しかし、ほんの数年前から事態はドラスティックに様変わりしている。スマホさえあ

れば生活情報は「母語」で十分に入手でき、買物もネットですぐに買えるのである。日常的に家族らと容易に連絡を取ることも可能だ。聴取の際に、外国人労働者たちに欲しい情報は何かと尋ねても、筆者たちが構築しようと企てていた組織のみが提供し得る情報を誰も回答しなかった。要は、インターネット検索の方がグローバルにタイムリーに情報収集が可能な時代になってしまったのである。

また、外国人在住者と接している担当者たちとの面談で、インターネットによる情報提供は有効ではない、パンフレット等を配布するだけで周知するのではなく、直接に面と向き合って対話する中で具体的に情報を伝えるべきであることがとても大切であると忠告された。

当初は独自のサーバーに無停電電源装置を取り付けて稼働し続け、掲載すべき情報を精選する組織をつくり、幾つかの言語に翻訳するチームを編成して、定期的にアップする計画であった。しかし、まず学内LANの管理者がサーバー接続に難色を示し、本取り組みのウェブ・サイトを併設するよう求められた。そこで割り当てられた位置に枠組みを作成した。しかし、さらに上述したように情報提供の必要性に対し、疑問符が投げかけられ、需要が殆ど聞き取れなかった。細々と運営する選択肢もあり得たが、注ぎ込む費用や労力と効果との点から判断し断念した。本取り組みの華々しい成果となるべき試みがあえなく潰れる形となった。

労働者として外国語の必要なレベル

外国人労働者を日本の事業体に橋渡しする組織や技能実習生制度を運営する団体は、テキストを作成し目標を定めている。日本語ばかりでなく日本の習慣に配慮し細やかな指導を実地で見せていただいた。ただ残念ながら、大崎上島に来て働く外国人労働者たちの日本語力は、作業現場で磨かれることを改めて確認したに留まった。翻って、日本の若者が海外で働く折りに必要な英語レベルを現実に沿って確定すれば、挨拶、数字、命令の幾つか、に極限できてしまいそうである。この点が本取り組みのもう一つの見込み違いであった。あえて報告文書を作成すべきではないレベルであったので、それに基づいて推定すべき外国で働く際に要求される英語力の措定も行なわなかったことにした。

本取り組みの成果は決して多くはなかった。しかし、外国人労働者の受け入れに際して問題点を浮かび上げながらせ打開の方向は暗示できたと考える。

平成28年の秋に本校で催された学園祭にあわせて「中国語で話す」部屋を開設し、聴取に協力してくれた中国人労働者全員に

招待状を配った。10人の中国人が来校し、対応してくれた本校の日本人学生は1名のみであったが、本校の雷准教授と穆准教授が対応し一時間余り歓談したあと、学園祭の中へ紛れ込んで行った。

彼らに日本語を、我らに中国語を、対等に教え合うなかで交流する緩いコミュニティ形成を、本取り組みの着地点とする。江田島市が催している合同スポーツ教室、その他に、日本の家庭料理と外国の民族料理を披露し教え合う料理の講習会、彼我の芸能を鑑賞し合う会、異文化講演会なども考えられる。もちろん語学講座もあり得よう。あくまで、対等に教え合う場であり、ウィン・ウィンを狙うイベントを目指すことになる。今後はこのような催しを社会活動として大崎上島町に実施を促していくつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

桑田明広、前田弘隆、上杉鉛一「外国人労働者のコミュニティ形成を目指して --- 母語による聴取から聞こえたこと ---」
広島商船高等専門学校紀要、査読無、第40号115 - 119ページ、平成30年3月

前田弘隆、桑田明広、上杉鉛一「外国人労働者の日本語事情 2」
広島商船高等専門学校紀要、査読無、第39号127 - 132ページ、平成29年3月

前田弘隆、武田和子、王文娟、穆盛林、桑田明広、上杉鉛一「外国人労働者の日本語事情」
広島商船高等専門学校紀要、査読無、第38号237 - 240ページ、平成28年3月)

〔学会発表〕(計 1件)

桑田明広「島嶼部に働く外国人の技能実習生に聞く」
日本島嶼学会年次大会、2016年9月2日、広島県豊田郡大崎上島町

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

桑田 明広 (KUWADA, Akihiro)
広島商船高等専門学校・一般教科・教授
研究者番号： 50153432

(2)研究分担者

松島 勇雄 (MATSUSHIMA, Isao)
広島商船高等専門学校・電子制御工学科・教授
研究者番号： 80157304

前田 弘隆 (MAEDA, Hiroataka)
広島商船高等専門学校・一般教科・教授
研究者番号： 60190310

上杉 鉛一 (UESUGI, En'ichi)
広島商船高等専門学校・一般教科・教授
研究者番号： 40249842

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()